

“ヒラメキ”からはじまる
企業ストーリー

「世界初のIoT電球・ハローライト」を開発した【ボクシーズ株式会社】

【未常識】今は常識ではない、でも未来に常識となる事…これは私が作った造語です。

一人暮らしの高齢者が大都市で急増しております。三大都市圏（1都2府5県）では2015年以降、世帯全体の1割を突破、高齢化が先行した地方より、大都市での急増が深刻化しています。単身高齢者は介護や生活保護が必要な状態に陥りやすく、社会保障の財政運営が、一層厳しくなっています。超高齢社会の日本にとって、これは大きな問題であります。都市は地域で助け合う基盤が弱く、一人暮らしを支える自治体の負担は地方より重いのが実態ではないでしょうか？

今回は居住者の安否が電球1つで確認できる「世界初のIoT電球・ハローライト」を開発した【ボクシーズ株式会社】をご紹介します。

「ハローライト」はLEDとSIMが一体化し、電源やWiFiが不要で照明の点灯、消灯の通信を行う、世界初の「IoT電球」です。点灯や消灯が24時間無い場合、通知がメールで届くシステムで、一人暮らしの高齢者の見守ツールとして、不動産オーナーや親と離れて暮らす方などに利用されています。

電球設置時は電源、ネット環境、工事も不要です。

文 牛久保洋次

text by Yoji Ushikubo

月額150円から利用可能であり、サービスを利用するにあたり、高齢者の操作に依存する事はなく、説明も要りません。1日1回の点灯を検知できるため、従来行っていた家族や介護事業者の定時連絡（1日1回の電話声掛け）のオペレーションの負担を減らす事ができます。

将来的には照明の点灯・消灯時間を基に「生活リズム」を分析し、予防医療として、“変化”の早期発見に繋げていくようです。

高齢者の見守りは社会的な課題であり、国や自治体の負担軽減の一手として、大きな期待が寄せられています。ボクシーズは日本の人口が確実に減っていく中で、省力化・省人化の為に積極的にIoT技術を活用したサービス、商品を開発・展開中です。

【ボクシーズ(株)】 <http://boxyz.com/>

今月の一言

日常生活の中、あたりまえにあるもので、自然に見守る製品

これが則ち【未常識の発見】



Profile

慶應義塾大学商学部 卒業
株式会社友アンド愛（レコードレンタルビジネスの開発者）を創業し、代表取締役就任。約700店舗をFC展開する。株式会社ビザカリフォルニアを創業し、代表取締役就任。約400店舗をFC展開する。日本CDビデオレンタル商業組合 初代理事長（社）ニュービジネス協議会 理事等を歴任。
現在、株式会社いかしあい隊 会長、その他顧問数社。